



トマト環紋ウイルス (tomato zonate spot virus) によるピーマンえそ環紋病の国内での初発生

神奈川県農業技術センター しま 島 だ 田 りょう 涼 こ 子

はじめに

2021年における全国のピーマンの作付面積は3,190 ha、生産量は約15万トンであり、国内の主要な野菜品目の1つである。神奈川県内におけるピーマンの作付けは限定的であるが、近年、一部の地域で半促成作型の施設トマトに代わる新たな品目として種なしピーマンの生産が始まり、注目されている。

そのような中、2021年に県内の施設ピーマンで、オルソトスポウイルス属に分類されるトマト環紋ウイルス (tomato zonate spot virus: TZSV) による病害の発生が国内で初めて確認された。本稿では、この病原ウイルスを同定した経緯やTZSVの特徴などについて紹介する。

I 発生状況

オルソトスポウイルスはトスポウイルス科オルソトスポウイルス属に分類されるウイルスの総称で、アザミウマ類により媒介される。神奈川県内では施設野菜や花き類を中心にオルソトスポウイルスによる病害が発生しており、その防除対策に苦慮している。

2021年5月、県内の施設ピーマンで、茎の頂部や葉のえそ症状、葉のえそ斑点症状が確認され (図-1)、これらの症状および検定植物への汁液接種の結果からオルソトスポウイルスの感染が疑われた。この施設では、2月上旬にガラス温室 (土耕) に苗を定植して以降、4月末まで施設内の温度を20℃以上に設定していた。収穫開始日は3月24日であった。



図-1 2021年に初発生した施設で観察された病徴
SHIMADA et al. (2023) より引用.

Occurrence of Leaf Necrosis on Green Pepper Caused by Tomato Zonate Spot Virus in Japan. By Ryoko SHIMADA

(キーワード: tomato zonate spot virus, ピーマン, オルソトスポウイルス)